

自転車賑わい拠点事業の優先交渉権者を決定しました

堺市では、市民の皆様が自転車に愛着を持ち、本市を訪れる人にも自転車を活用した都市魅力を感じてもらえる「サイクルシティ堺」を推進しており、その取組のひとつとして、広域的なサイクルラインである大和川リバーサイドサイクルラインや阪堺線大和川停留場と隣接する敷地を活用した自転車賑わい拠点の整備を進めています。

このたび、当該施設の設計、整備及び管理運営を行う事業者を募集し、有識者で構成する堺市大和川自転車賑わい拠点整備事業者選定委員会の審査を経て、以下のとおり優先交渉権者を決定しました。

1 事業地の概要

- 所在地 堺市堺区遠里小野町 1 丁
- 敷地面積 約 1.3ha



2 優先交渉権者及び提案内容

優先交渉権者	(代表企業) 株式会社 Andeco (構成企業) 株式会社きゅうべえ 株式会社 CYCLE Hub & Port 一級建築士事務所川上聡建築設計事務所 総合調査設計株式会社 株式会社鳥羽瀬社寺建築 株式会社建真
施設概要	別添「提案概要書」を参照 ○自転車体験施設（200mトラック、パンプトラック、すり鉢広場 など） ○サイクルステーション（トイレ、シャワー、休憩スペース など） ○自転車ショップ（自転車小売、メンテナンス など） ○ベーカリーカフェ

管理運営期間	10 年 2 か月
事業者が市に支払う 貸付料	建物：2,230 円／㎡・月 土地：426 円／㎡・月
市が負担する整備費用	300,000,000 円

3 優先交渉権者に対する選定委員会講評（主な意見）

- ・こどもに対する自転車の安全教育に関して、しっかりとした考え方が示されている点が評価できた。
- ・ライフスタイルに合わせて本施設を利用できる提案となっている点が評価できた。
- ・創意工夫がそれぞれの提案の中にみられ、実体験に基づく経験を踏まえた提案となっている点が評価できた。
- ・大和川堤防道路からの鳥瞰を考えた建物配置や建築デザインとなっており、周辺環境を踏まえた一体性のある提案となっている点が評価できた。
- ・豊富な経験に基づきアプローチされた実現性のある提案となっており、安定した管理運営が期待できる点が評価できた。
- ・実績に基づく堅実なプランではあるが、どここの場所でも通用するような提案でもあるので、今後、更に堺市の特徴を活かした踏み込んだ取組に期待する。

4 今後のスケジュール（予定）

令和 7 年 6 月下旬 基本的事項に関する協定の締結
 令和 7 年 9 月下旬 整備費用負担に関する協定の締結
 令和 7 年 10 月から 施設の設計及び整備工事
 令和 9 年 3 月 施設オープン

5 その他

自転車賑わい拠点事業の詳細は以下の堺市ホームページからご確認いただけます。

<https://www.city.sakai.lg.jp/kurashi/doro/jitensha/kyoten.html>



問 い 合 わ せ 先	担 当 課：建設局 サイクルシティ推進部 自転車環境整備課 電 話：072-228-0294 ファックス：072-228-0220
----------------------------	---

goorin jct.

グーリン・ジャンクション

※堺市追記
「グーリン・ジャンクション」との名称は、優先交渉権者の提案名称であり、本施設名として決まったものではありません。



本計画地は、大和川リバーサイドサイクルラインや大阪ベイサイドサイクルライン、さらにツアー・オブ・ジャパンの舞台である大仙公園など、広域的なサイクリングアクティビティが交差する「結節点」です。また、阪神高速や阪堺電車を含む4本の路線が集まり、かつては大和川の水運で栄えた歴史を持つ、交通の要衝でもあります。

過去と未来、地域と広域、自転車と公共交通がつながる場所として、堺の新たなハブステーションとし、自転車を中心に据えながら、様々な人の営みが交わり新しい出会いや取り組みがうまれるような場所にします。

- ▶「サイクルシティ堺」の中核拠点として、自転車文化の発信とにぎわい創出を両立させる統一的な運営
- ▶未就学児から自転車教育を段階的に実施することで、ルール・マナーの模範となる自転車愛好家を1人でも多く輩出
- ▶民間活用施設、自主提案施設と有機的に連携することによって、自転車を活用した関西一円での広域連携の実現

自転車と交わる8つのサイクル グーリンジャンクションでは様々な要素が「交わりあう」ことで、自転車を軸としつつもその枠を越えたアクティビティを育み、市民のいきいきとした営みを描いていきます。



“サイクリストだけじゃない、「あらゆる人にひらかれた」公園”

- ①サイクリスト
広域サイクリングの起点として駐輪・メンテ施設を整備し、イベント情報も発信。仲間づくりやレース参戦など、多彩な関わり方が広がり、自転車への熱意をさらに深められます。
- ②ファミリー
親子で自転車遊びを楽しめるゾーンや、ベーカーリーや週末イベントで昼食を買って芝生でのピクニックなど、日常的に家族連れで楽しみに来れる場を用意しています。
- ③学生・教育機関
大学や専門学校との連携プログラムや課外学習の場を提供し、自転車を軸にした交通や環境、地域研究などを多角的に実践的に学び、次世代の人材育成を幅広く支援します。
- ④高齢者
早朝サイクリングでゆったり走行し体を動かし、ベーカーリーで朝食。地域の健康教室やヨガ、交流プログラム等も用意し、身体機能の維持と生きがいづくりを支援します。
- ⑤インバウンド、留学生
多言語対応のサイクリングガイドやレンタサイクル、地域観光情報を整備し、堺の魅力を異文化視点で発信可能に。留学生向けに自転車の交通ルール教室も開催。



民間活用施設と自主提案施設の役割をはっきりと定義することで、自転車拠点と相互に連携した運営を行い、施設全体の付加価値を向上させます。



広場エリア (goorin garden/goorin land park)

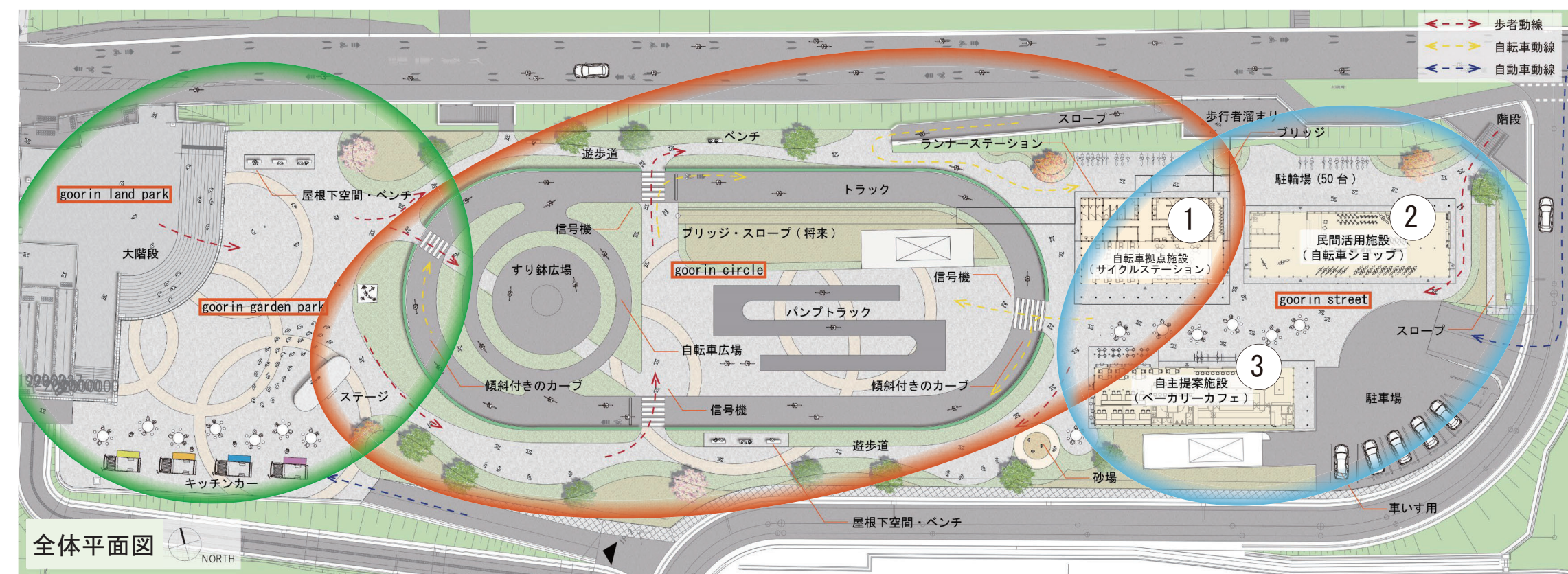
大和川駅側からの来訪者を迎える広場空間。平常時は子どもたちが地上絵の上を走り回り、週末はステージや広々としたエリアを有効活用したイベントを開催。

サイクリングエリア (goorin circle)

緑豊かな遊歩道の中にぽっかりと現れる広大なサイクリングトラック。パンプやすり鉢状の広場など、自転車の様々な楽しみ方に触れられる空間に。

店舗エリア (goorin street)

サイクルステーションと自転車ショップ、ベーカーリーカフェが相互に連携して賑わいをつくるエリアです。





自転車拠点施設
① サイクルステーション
サイクリストが気軽に立ち寄り、情報交換や交流を楽しめる場を設けることで交流機会を創出。キャッシュレス決済を整備し、休憩拠点としての付加価値を向上させます。



民間活用施設
② goorin bike (仮称)
サイクリストや初めてスポーツバイクに乗る方のサポート拠点として、メンテナンス、小売、飲食機能を提供。オリジナル商品を開発・販売することで施設の認知度向上、ファンを創出します。



自主提案施設
③ goorin bakery (仮称)
見たがかわいいキューブパンを主体としたベーカーリーカフェ。広く堺・大阪の市民に利用していただき、日常利用できるベーカーリーをきっかけに、自転車に興味を持ってもらう入口の役割。